

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大門小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	教師の一斉指導で知識技能を高めることができたので、次年度は評価の基準を示し、児童が主体的学びができるようにする。朝学習等を使って、ドリル学習を行い、更に理解を深めるように計画的、継続的に学習に取り組ませていきたい。
思考・判断・表現	授業の中でどの学習過程においても、ペアやグループ学習を取り入れ意図的、計画的に協働的な学びを位置付けることができた。次年度は、オンラインプラス等のICTを積極的に活用し、情報共有や発表場面に取り入れていきたい。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<p><学習上の課題> 国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」 算数「数と計算」 <指導上の課題>個に応じた指導を充実させていく必要がある。確実に理解させるための反復練習が足りない。</p>	⇒ 誤答しやすい例を出し理解を深める。【毎時間】アルゴリズム(計算の仕方を言語化する)を取り入れて、全員が正しい計算方法や計算順序を確認する。【毎時間】課題が終わった児童には、ドリルパーク等に取り組ませる。【各単元】
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 国語「話すこと・聞くこと」 算数「数と計算」 <指導上の課題> 個人差があり、個に応じた指導を充実させていく必要がある。児童主体の学習活動の機会が十分でない。</p>	⇒ 授業の中でどの学習過程においても、ペアやグループ学習を取り入れ意図的、計画的に協働的な学びを位置付ける。【各単元】課題を全体でしっかり共有し、解決のために必要な資料や文など選択することに自力解決を促しながら、個別にも支援していく。【毎時間】

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	B	誤答しやすい例を出すことで確実に理解を深めることができた。アルゴリズム(計算の仕方を言語化する)を取り入れて、全員が正しい計算方法や計算順序を確認することができたが、問題が複雑になると誤答する例も見られた。課題が終わった児童には、ドリルパーク等に取り組ませることで主体的に学習を進めることができた。
思考・判断・表現	B	授業の中でどの学習過程においても、ペアやグループ学習を取り入れ意図的、計画的に協働的な学びを位置付けることができた。しかしながら、個別にも支援していくことがこれからの課題である

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」の中で学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題で課題が見られた。通常の漢字テストは、できているので、「言葉の特徴や使い方」に関することが不十分であると考えられる。算数の「図形」の中で台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題に課題が見られた。R7全国学力・学習調査の児童質問「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思えますか」に対する肯定的な回答の割合がとても大きい。今後とも児童主体の個別最適な学びを進められるように教職員の研修を積んでいく。	
思考・判断・表現	国語では、「読むこと」の中で、目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけることができるかどうかをみる問題に課題が見られた。図表やデータの読み取りが不十分であると考えられる。算数では「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる問題に課題が見られた。R7全国学力・学習調査の児童質問「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」に対する肯定的な回答の割合がとても大きい。今後とも、授業の中で、課題を立て情報を集め、発表する活動を意識していく。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	同一集団での経年比較により、国語、算数について複数の学年で改善が見られた。国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」の中で、当該学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことを見る問題は正答率が上がってきている。しかし、「文の中の主語と述語の関係を理解することができる」「修飾と被修飾語の関係」や「相手や場面に応じて適切に敬語を使うことができる」などの設問に課題が見られた。算数の「数と計算」について、どの学年正答率が高くなっている。しかし、「小数の減法の計算をすることができる」などの基本的な設問に複数の学年で課題が見られた。また「測定」では、時刻の求め方を理解している「変化と関係」について「時速から分速を求める」などの設問に課題が見られた。	
思考・判断・表現	同一集団での経年比較により、国語、算数について複数の学年で改善が見られた。国語の「話すこと・聞くこと」の中で「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる」「資料を活用するなどして、自分の考えを伝えるように表現を工夫することができる」の設問の課題が見られた。算数の「データの活用」の「複合グラフから特徴を読み取ることができる」や「数と計算」の「整数倍にあたる2つの数量関係の場面と図を関連づけることができる」などの設問に課題が見られた。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	誤答しやすい例を出し理解を深めることができた。アルゴリズム(計算の仕方を言語化する)を取り入れて、全員が正しい計算方法や計算順序を確認することができた。課題が終わった児童には、ドリルパーク等に取り組ませることができた。	変更なし
思考・判断・表現	B	授業の中でどの学習過程においても、ペアやグループ学習を取り入れ意図的、計画的に協働的な学びを位置付けることができた。課題を全体でしっかり共有し、解決のために必要な資料や文など選択することに自力解決を促すことができた。しかしながら、個別にも支援していくことがこれからの課題である	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)